



ID: 1303

科目名	建築設計 I 【26年度生用】			コード			
英語表記	Elements of Design and Principles of Design I						
担当教員名	古屋 正次			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	演習	授業形式	面前	履修形態	必修		
授業概要							
建築設計の表現方法である建築製図の修得を目的としている。建築を志す者にとって、設計製図は必修である。基本的な製図の習得の後、木造住宅の図面コピーと小空間の設計によって、建築設計に必要な製図規約・表現手法等を学ぶ。							
到達目標							
(1) 建築製図に用いられる線や製図記号の種類と意味を理解し実際に描く。(2) 建築製図の表現方法を理解し、建築物を表現する。(3) 建築製図の各図において、その表現方法を理解し実際に描く。(4) 建築図面のコピーを通して建築空間と設計図の対応関係を理解し製図する。							
授業計画							
第1回	製図用具の使い方・名称と種類 線の種類 文字・数字						
第2回	(課題1)線の練習1 線の太さ・種類を描き分ける。						
第3回	(課題2)線の練習2 様々な図形を、様々な線種を使って描く。						
第4回	(課題3)建築設計の基本である、平面図・立面図・断面図を作成する。ここでは構造体の表現は最小限にとどめ、躯体線・開口部・建具・寸法線・図面文字等の基本的な表現方法を学ぶ。また断面図と立面図によって立体的なものを図面で表現する方法を習得する。						
第5回	同上						
第6回	同上						
第7回	同上						
第8回	(課題4)前課題で学んだ方法を実践する。各自で小空間をデザインし、それを平面図・断面図・立面図を用いて表現する。立体的なものを、図面化(二次元化)することが求められる。また作成した図面を用いて、作品のプレゼンテーションを行い、互いに講評する。						
第9回	同上						
第10回	同上						
第11回	(課題5)木造小住宅の平面図・立面図・断面図を作成し、製図の基本を学ぶとともに、より実践的な表現方法を習得する。建築物の構成を理解した上で、実際の設計図に近い密度の濃い図面を作成する。さらに配置図の植栽の表現、平面図の目地・家具等の書き込み、断面図による空間構成の表現、立面図の立体感など、より高度な図面表現を学んでいく。						
第12回	同上						
第13回	同上						
第14回	同上						
第15回	同上						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
提出課題に対して理解度、表現力、完成度を総合的に評価する。5つの課題の評価点を平均して合格点に達すれば、単位認定をする。そのほか、学習意欲・出席状況も考慮する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
授業外学習			テキスト、教材				
主として製図室での作業とするが、自宅での予習・復習をしておかないと時間内に十分理解は出来ない。			テキストはなし。課題内容の資料を講義演習時に配布する。				
参考書			受講生へのメッセージ				
日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」丸善			CADが普及した昨今であるが、建築士資格試験では製図板での作図能力が要求される。また実務の上でも手描きの技術は必ず生きてくる。ここで確実に身につけよう。				
キーワード							